東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて

2018年3月29日

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

事務総長　武藤敏郎

平昌2018大会

東京2020大会会場計画

競技会場

43会場

約40%が都外に立地

（北海道・宮城県・福島県・茨城県・埼玉県・千葉県・神奈川県・静岡県）

東京2020大会の概要

競技日程

オリンピック（17日間）
7月24日
~8月9日

パラリンピック（13日間）
8月25日
~9月6日

選手数

オリンピック
11,090人

パラリンピック
4,400人

競技数・種目数

オリンピック
33競技 339種目

パラリンピック
22競技 539種目

参加国
（リオ大会ベース）

オリンピック
206カ国・地域

パラリンピック
160カ国・地域

観客数
（予定）

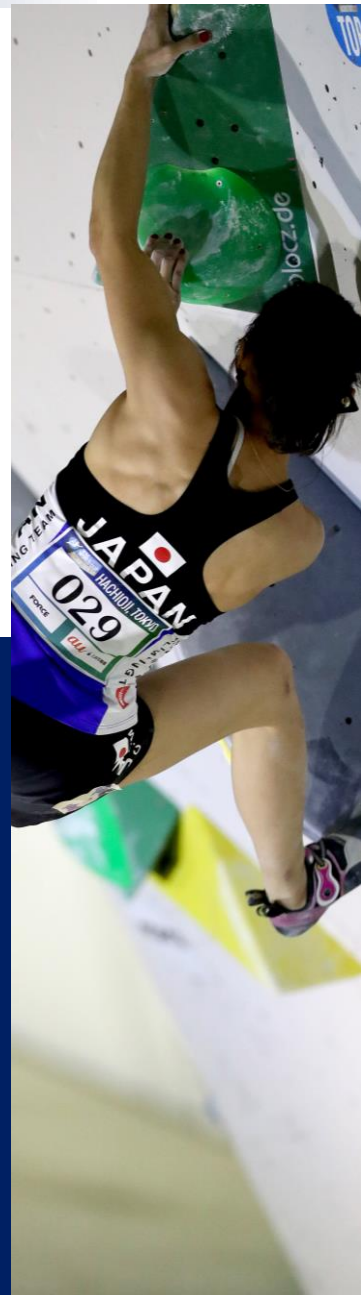
オリンピック
780万人

パラリンピック
230万人

メディア数
（予定）

オリンピック
25,800人

パラリンピック
9,500人

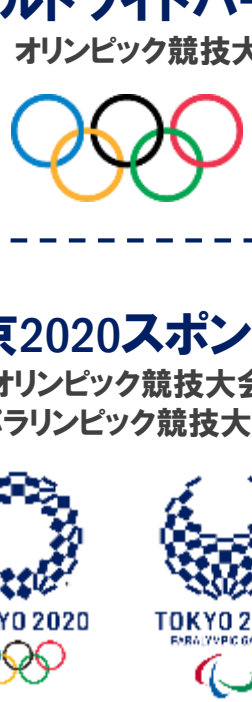


スポンサーシッププログラム

国内スポンサーより3100億円の収入を確保（招致時の計画は820億円）

ワールドワイドパートナー
オリンピック競技大会

東京2020スポンサー
オリンピック競技大会
パラリンピック競技大会



世界最高位ランクのスポンサー　13社

国内第1ランクのスポンサー　15社

国内第2ランクのスポンサー　30社

国内第3ランクのスポンサー　3社

※Tier2：Tier1より権利・機会を限定、Tier3：Tier2より権利・機会を限定

（2018年3月時点）

大会予算(Version.2)

2017年12月　大会経費V2を発表
（V1より1,500億円削減）

組織委員会予算

収　　入

項　　目	金　　額
IOC負担金	850億円
TOPスポンサー	560億円
国内スポンサー	3,100億円
ライセンシング	140億円
チケット売上	820億円
その他	330億円
増収見込	200億円
計	**6,000億円**

支　　出

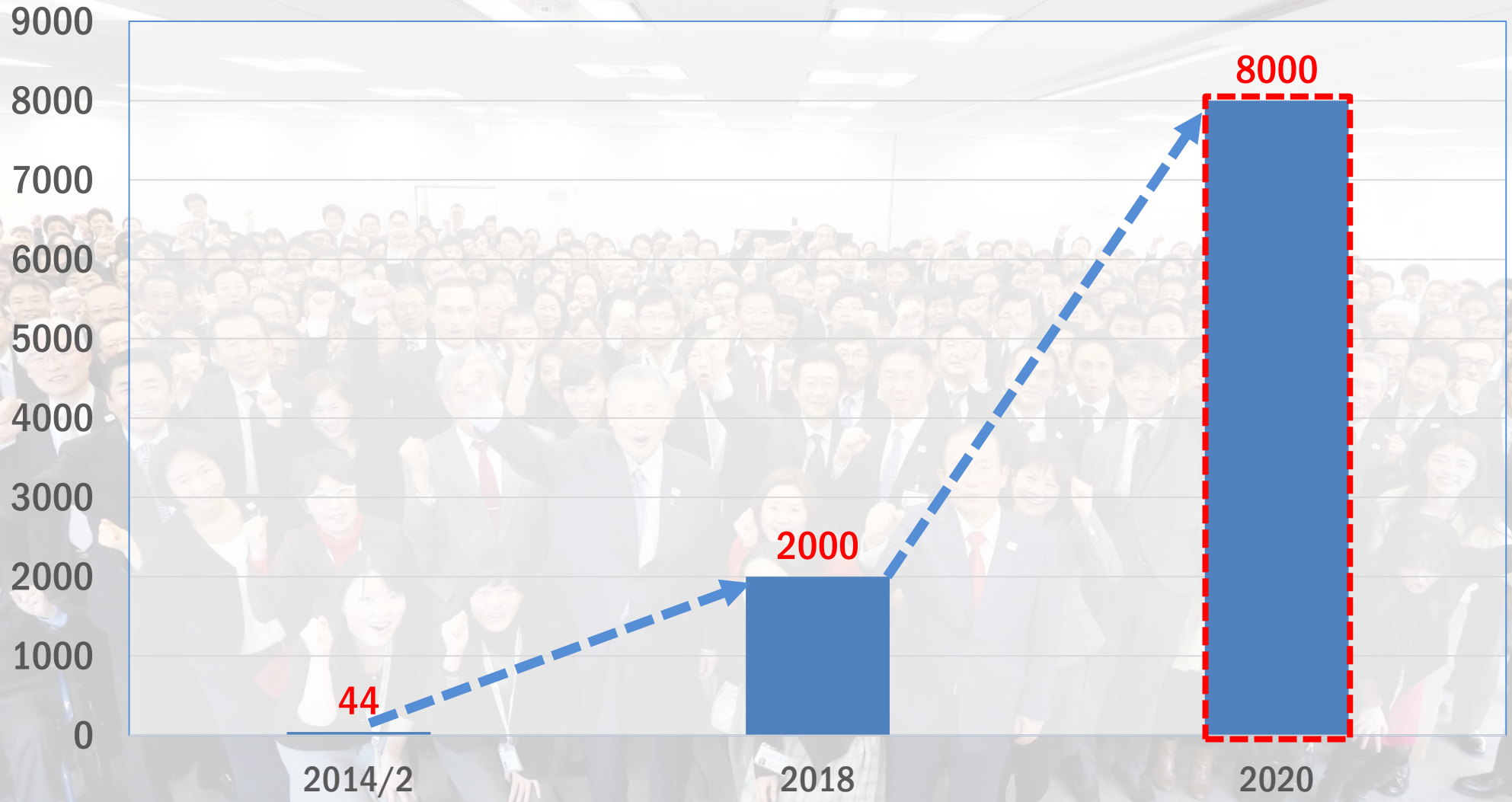
項　　目	金　　額
ハード（会場整備）	1,100億円
仮設等	950億円
エネルギーインフラ	150億円
ソフト（大会運営）	4,900億円
輸送	250億円
セキュリティ	200億円
テクノロジー	700億円
オペレーション	1,000億円
管理・広報	600億円
マーケティング	1,250億円
その他	400億円
調整費	500億円
計	**6,000億円**

【参考】　組織委員会及びその他の経費

	組織委員会	その他	計
ハード（会場整備）	1,100億円	5,950億円	**7,050億円**
恒久施設	ー	3,450億円	3,450億円
仮設等	950億円	2,200億円	3,150億円
エネルギーインフラ	150億円	300億円	450億円
ソフト（大会運営）	4,900億円	1,550億円	**6,450億円**
輸送	250億円	250億円	500億円
セキュリティ	200億円	800億円	1,000億円
テクノロジー	700億円	350億円	1,050億円
オペレーション	1,000億円	150億円	1,150億円
管理・広報	600億円	0億円	600億円
マーケティング	1,250億円	0億円	1,250億円
その他	900億円	0億円	900億円
計	6,000億円	7,500億円	**13,500億円**

（注）このほかに予備費1,000億円～3,000億円がある。

組織委員会体制


9000
8000
7000
6000
5000
4000
3000
2000
1000
0
44
2000
8000
2014/2
2018
2020

大会2年前（大会マスコット・夏祭り）

マスコット正式発表

東京五輪音頭-2020-

ボランティア

	大会ボランティア	都市ボランティア
人数	8万人	3万人
募集 運営	東京2020組織委員会	東京都※
活動 場所	競技会場、選手村等の 大会関係施設	空港・主要駅・観光地、 競技会場の最寄駅周辺及び ライブサイト
活動 内容	観客サービス、 競技運営サポート、 メディアのサポートなど	国内外からの旅行者に対する 観光・交通案内、競技会場までの観客 の案内及びライブサイト運営のサポート

※競技会場を有する都外自治体それぞれにおいても、設置に向けた検討中

応募開始 ： 2018月9月中旬から

チケッティング

東京2020大会は史上最大級のチケッティング・イベント

（プロ野球１球団の4～5年分のチケットを約1ヶ月間で取扱うプロジェクト）

過去大会のチケット規模（概算数）

ロンドン大会　1037億円／1080万枚
リオ大会　　509億円／ 821万枚

東京大会のチケット規模（招致ベース）

オリンピック　772億円／780万枚
パラリンピック　48億円／230万枚
合　計　　820億円／1010万枚

東京大会のチケット販売スケジュール（検討中）

2019年中に発売開始予定

『チケット完売・売上の最大化』と『フルスタジアムの実現』の
両面から検討を進める

オリンピック・パラリンピックレガシー

オリンピック・パラリンピック レガシー
＝
大会開催によって大会後に残る有形・無形の影響や効果

東京大会（1964年）

【ハードレガシー】

- 東海道新幹線
- 首都高
- 国立競技場
- 代々木体育館　等

【ソフトレガシー】

- 衛星放送技術
- 体育の日　等

札幌大会（1972年）

【ハードレガシー】

- 地下鉄
- 地下街
- ジャンプ競技場　等

【ソフトレガシー】

- スキー・スケートの浸透
- オリンピック学習　等

長野大会（1998年）

【ハードレガシー】

- 長野新幹線
- 上信越自動車道　等

【ソフトレガシー】

- 一校一国運動
- ボランティア
- 大会ホームページ　等

東京2020大会

【ハードレガシー】

- 新設競技会場
- ベイエリアの発展　等

【ソフトレガシー】

- スポーツ産業と健康増進
- 情報テクノロジーの発展
- サイバーセキュリティの発展
- 環境技術の発展
- アクセシブルな街づくり
- 国際的な人材・文化の交流　等

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

プロジェクトの現状（回収拠点と実績：2017年4月－2018年1月累計）

NTTドコモ ： **約266万台の携帯電話等**（全国約2,400店舗のドコモショップ）

自治体 ： **約8,915トンの小型家電**（全国1,404自治体、全国累計6,591か所）

【スケジュール（イメージ）】

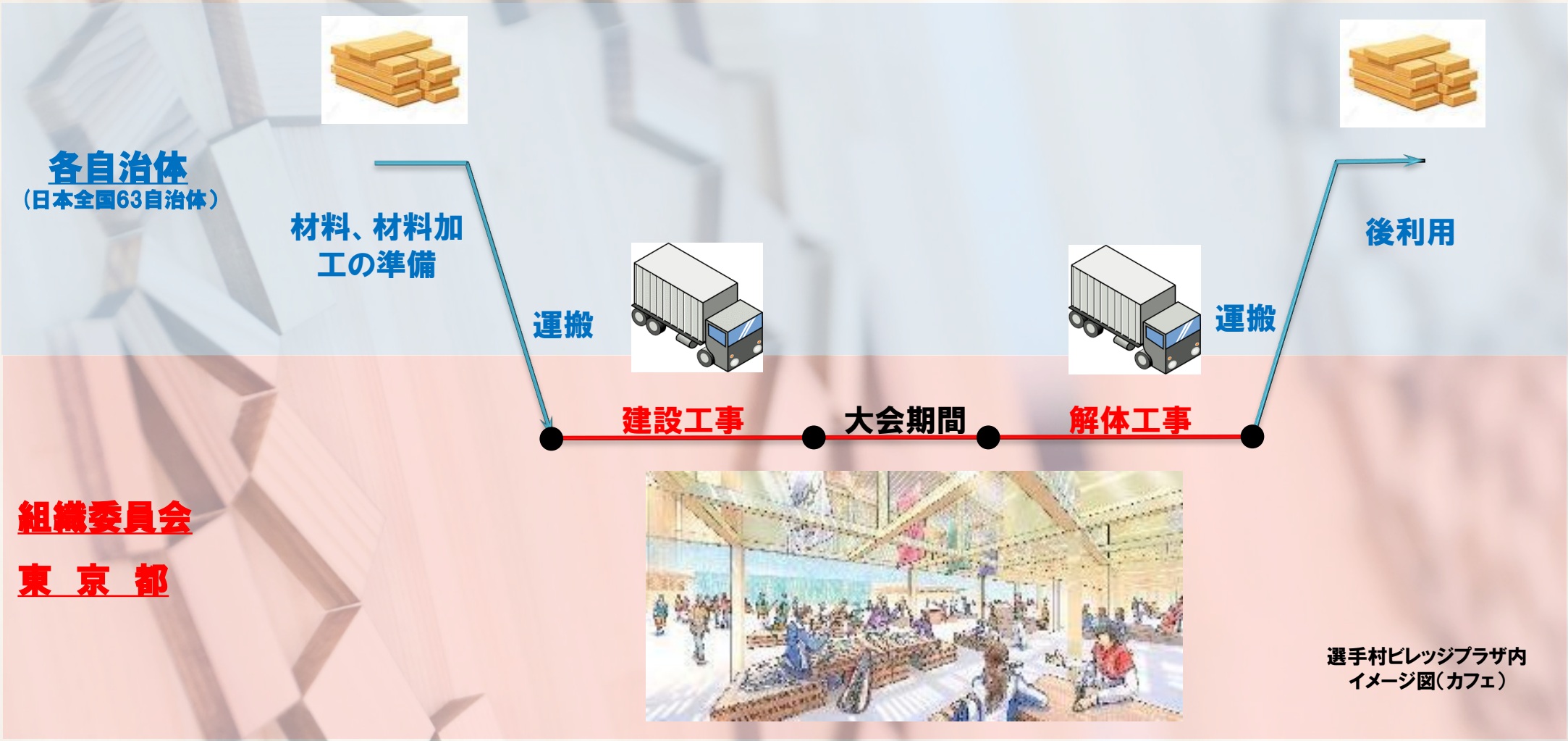
2018年1月 → 4月 → 7月 → 2019年4月

回収拠点の拡大 → 終了

入賞メダルデザインコンペ実施 → 入賞メダルの製造

日本の木材活用リレー　～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～

組織委員会が建設するビレッジプラザに利用する木材を、参加自治体より集め、
大会後に各自治体が木材を持ち帰り、レガシーとして活用



アクセシビリティとユニバーサルデザイン

組織委員会の狙い

東京2020大会に向け、アクセスの機会を確保するよう環境整備を図り

障がいの有無に関わらず、すべての人々が相互に人格と個性を尊重し合う

共生社会の実現に貢献することを目指す

アクセシビリティガイドラインの適用範囲と優先順位

- 大会会場と最寄駅等から会場に至る経路のうち、組織委員会が選定するエリア
- レガシーとして未来に継承するため、まずは施設の所有者・管理者等に対し
  恒常的な施設としての環境整備を依頼する ⇒ 困難な場合は仮設対応等

パラリンピックとインクルーシブな社会の実現

パラリンピックの大会準備・運営とそのレガシー

- 初めて同一都市として2回目のパラリンピック競技大会を開催
- アクセシビリティを重視した競技施設や選手村の整備
- 障がい者スポーツの振興
- パラリンピックを契機とする人々の意識改革、共生社会の実現

組織運営におけるパラリンピックの重視

- 組織委員会にパラリンピック統括室を設置し、関係職員を配置
- JPCやパラリンピアンなどパラリンピック関係者が調整会議、理事会、アスリート委員会等に参画

復興への取り組み

過去大会での取り組み

ハンドオーバーセレモニーの発信

被災地でのライブサイト実施

東京2020ジャパンハウスでの発信

被災地でのフラッグツアーの実施

アスリート被災地訪問

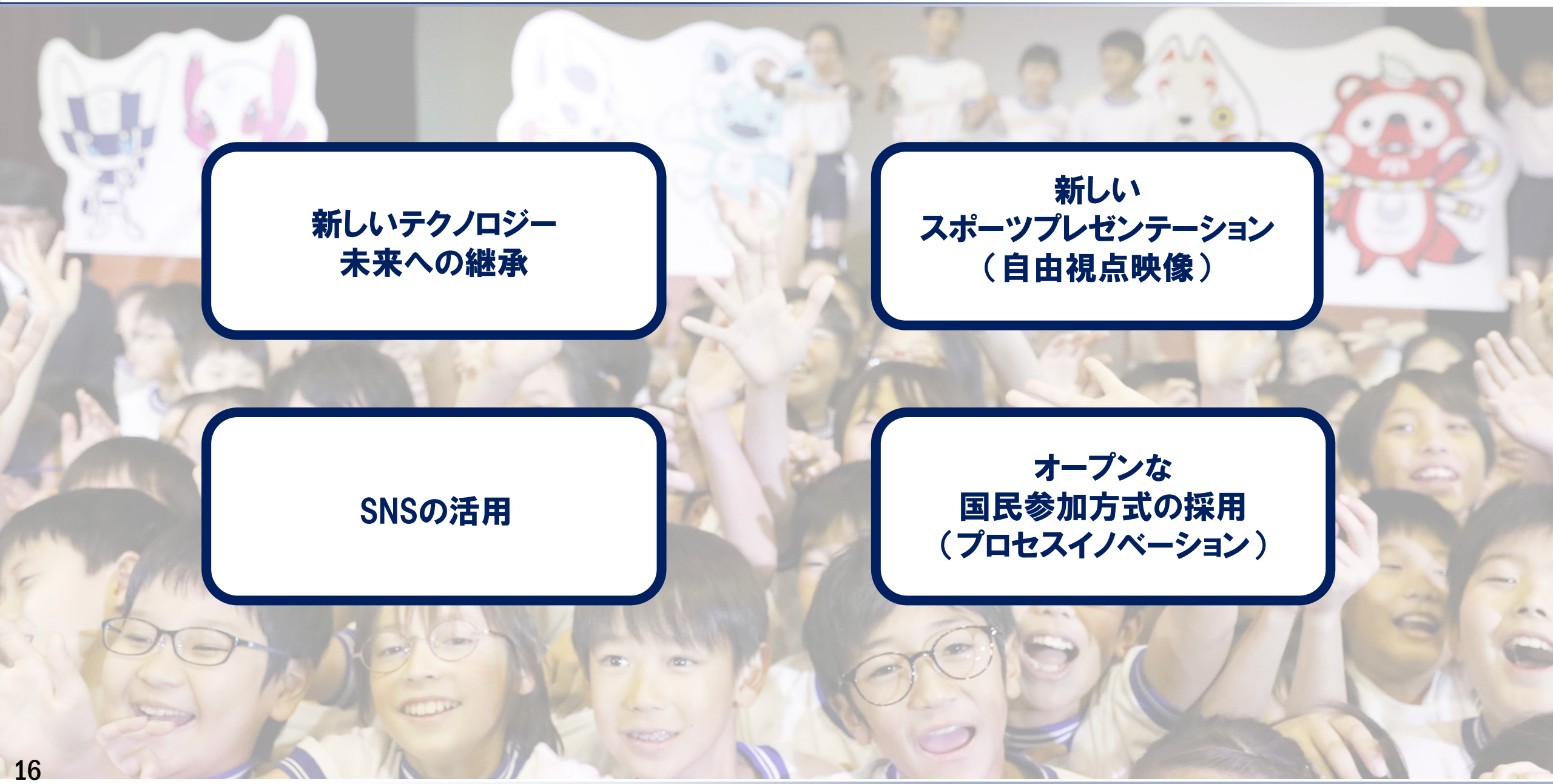
宮城県、福島県、熊本県で、アスリート参加型のイベント実施

東京2020参画プログラム事業の実施

被災県での競技実施

宮城県でのサッカー開催に加えて、
福島あづま球場で野球/ソフトボールを開催

科学技術や社会システムのイノベーション



新しいテクノロジー
未来への継承

新しい
スポーツプレゼンテーション
（自由視点映像）

SNSの活用

オープンな
国民参加方式の採用
（プロセスイノベーション）

輸送

観客や大会関係者をスムーズに運ぶサービスを提供

- 選手村やホテルと競技会場などの間にオリンピック・ルート・ネットワークなどを設け、選手、メディア等の大会関係者毎のニーズに合わせた輸送サービスを提供する。

- 大会を観戦する観客のために、最寄りの駅から距離のある会場までの交通手段を用意する。

輸送支援スタッフ雇用

大会関係者輸送用
バス借り上げ

輸送用自動車

オリンピック・ルート・
ネットワーク整備

大会関係者の
公共交通無料化

車両基地

会場周辺駐車場

※2018年3月時点の計画に基づく。

セキュリティ

脅威に備え、大会の安全・安心を確保

- 観客や大会関係者などの安全・安心を確保する。
- 競技会場や関係施設への入場時に確実なセキュリティチェックを実施する。
- テロやサイバー攻撃などの脅威に備える。

警備指揮所

民間ガードマンによる警備

来場者等に対する
セキュリティチェック

セキュリティカメラ

車両に対する
スクリーニング資機材

サイバーセキュリティ対策

公的セキュリティ機関
による警備

※2018年3月時点の計画に基づく。

オペレーション

聖火リレー・選手村・医療等の多岐にわたる準備運営

- 選手村、宿泊、飲食、医療などのサービスを、選手、スタッフ、メディア等の大会関係者に提供する。
- 聖火リレー、開閉会式、競技プレゼンテーション、アンチ・ドーピング活動などを実施する。

宿泊

選手村

飲食

医療

アンチ・ドーピング活動

聖火リレー・開閉会式

競技

※2018年3月時点の計画に基づく。

Thank you